

ディレクトフォースについて

ディレクトフォースでは、三菱商事を訪れた。三菱商事といえば、以前日本史で習った岩崎弥太郎氏が創立した日本国内でも有数の大企業だ。その創立にはかの有名な坂本龍馬も関わっているらしい。今回、私たちのために、貴重な時間を割いてくださり、このような場を提供して下さった、先生方や企業の方々や保護者には本当に感謝をしている。

『三菱商事』はいままでの日常生活でもよく耳にする言葉だ。私が小学生のころ使っていた鉛筆もそうだし、道路を走る三菱の車もそうだし、家にある家電もそうだし、三菱のものは多い。しかし、予想以上に三菱商事が手がけている分野は広がった。三菱商事はいわゆる、総合商社と呼ばれるものらしい。具体的には、地球環境・インフラ事業、新産業金融事業、エネルギー事業、金属、機械、化学品、生活産業の7グループにビジネスサービス部門を加えた体制で、幅広い産業を事業領域としている。今回の社員さんの話で、三菱商事がサーモンや化学といった分野をもカバーしていることを知って、内心サーモンと化学なんてもうなんのつながりもないじゃないか、と思いつつ、手がけている分野の広さには驚いた。

利益を上げるだけでなく、社会貢献も多くしていることがわかった。事前に調べたのでは、海外プロジェクト探検隊という活動をしているのがわかった。これは、三菱商事が海外で展開している様々なプロジェクトの現場を高校生たちが訪問し、現地の模様や肌で感じたことをレポートする企画だ。行く前は三菱商事が海外でボランティア活動？日本の企業なのにどうしたことだなどと思っていたが、手がけている分野が広い分、手がけている地域も多い。社員さんの話を聞くと、ほぼ全ての社員さんは海外で数年間働いた経験があり、納得がいった。このプロジェクトは素晴らしいと思う。海外に雇用を生み出すことをはじめに、高校生たちの社会的な学習にもつながり、より三菱商事の活動を世に広めることができる。彼らのレポートはインターネットに掲載されている。読んでいて、世界のことがわかり、もっと三菱商事について知ることできる。これは、ぜひいろんな方に見ていただきたいと思う。

調べてみたり、聞いたりした話によると三菱商事は他にもボランティア活動を行っている。

その一つが、東日本大震災のボランティア活動だ。金銭的な面で、奨学金や復興支援助成金を提供した。私は正直なお金だけでも十分ありがたいもので道が開けると思う。その上に、今回のディレクトフォースのプレゼンテーションで、社員さんが自ら、被災地に赴いて、地元の方たちとともに、瓦礫を撤去している写真を見られた。これには心を動かされるものがある。何度も言うが、お金だけでも十分ありがたいが、やはり、お金に変えられないものもっているのだと感じた。これも、インターネットに掲載されているが、現地の方のコメントでは、『みなさん（三菱商事の社員さん）に応援していただいて、頑張ろうという気持ちになれました』や、『(元気に活動することは) それだけでも地元の人間にとって大きな意味を持っています。』、『(また、社員さんの残した言葉で)『ここから未来が作られるという実感を持ちながら作業している』という言葉が忘れられない』これを読んだ私は、本当に被災地に大きな貢献をしているのだとしみじみと感じた。特に、この3つ目の社員さんの言葉は未来志向な言葉で非常にその人の人柄の良さが見えていて伝わってくる。三菱商事の素晴らしさを改めて実感した。

三菱商事の社員さんが残した言葉で心に残った言葉は他にもある。別の話になるのだが、これは、ディレクトフォースのときの経験豊富な社員さんの言葉だ。『①やるかやらないか迷ったら挑戦、②世界の中の日本を意識、③自分と”違う”ことを受け入れる』これについて自分が思ったことを述べてみたい。

まず、①について。余談だが、このことは、私が企業大学訪問で訪れた精神科医のゆうきゆう先生も述べていたことである。先生も『心理学的に、「やらない後悔」は、「やる後悔」より強い。』と述べられている。たとえば、ヒヨコがタマゴを割って出てきたら、二度と卵の中には戻れない。普段の生活に置き換えるならば、いつでも戻れる、いつでも帰れるということは生や死においてない。これをさらに実生活に落とし込んで見ると、新し

い学校に入学した、会社に入社した、新しい何かをスタートさせた、もし自分に合わないと思っても、失敗しても元には戻れない。でも、後悔はしない。やったという事実は残るし、それは今後の課題のための経験として役に立つと思うからだ。タマゴを破らずにタマゴの中で老いて死んでいくのはあまりにも虚しすぎる。

次に、②について。これも、社員さんとの交流の中でも、別の社員さんも述べられていたことだ。その、社員さんによると、日本人はチームワークがあるのだという。ともに狩りをして助け合いながら残ってきた。これは他の国には真似できないという。この、日本人としてのチームワークが三菱商事が総合商社として残った理由であるとも述べていた。確かに、日本だけには限らないと思うが、日本はチームワークは非常にあると思う。周りを海に囲まれたこの島で、資源もないこの島で、生きていくためには、やはり、チームワークが必要不可欠だ。そうやって、今まで農業もしてきたし、漁業もしてきたり、林業もしてきたし、工業も発展させてきた。これからの日本の発展にもチームワークは欠かせないと思う。

因みに、この社員さんが述べられていたことで、『あかせききれい』という言葉がある。街で見かける鳥、セキレイのことではない。『あ』は安全のあ、『か』は確実のか、『せ』は清潔のせ、『き』は規律のき、『きれい』が礼節のれい。あまり知られていないこの言葉だが、ハウレンソウと同様に将来働くとき、いや、現在の生活においても、この言葉を胸に刻んで行動していきたい。

また、英語、外国語を習得するだけではならず、日本文化の理解をベースにして、それにプラスして英語、外国語の勉強をするのが良いという。なるほどと思う。よく、外国語が話せたとしても、外国に行ったら、外国人は単に自分が日本人だからという理由で、日本のことについて聞いてくると聞く。ここでもし、自分の文化について何も述べることができなければ、これはもう、世界の中の日本を意識どころか、世界の一員にすらなれていないと思う。そのためには、今はまず、自国の文化を知るために、言葉や歴史についてきちんと学んでいく必要があるのだと思う。

最後に、③について。これは、自分が違うことを受け入れると同義である。これは、自分の長所も短所も受け入れ、変える必要はないのだということだと思う。短所は、見方を変えれば長所になりうる。たとえば、人より物を考えるのが遅いということは、人よりじっくり考えることができるということだし、意固地だということは、人の意見に流されにくいということである。もちろん、変えなければならない短所も存在するが。基本的に、自分の性格を変えるのは大変苦労するし、それはもう自分ではないと思う。だから、元の素材を活かした自分があるべきなのだと思う。

今回の研修で、企業のことはもちろん、人生についての考え方も学ぶことができた。それについて、堂々と語ってくれる大人の社員さんたちは私の目にとってもカッコよく映って見えた。私も、遠い将来、次世代に、このような立派なことを語れるよう精進していきたい。